

2017/10/08 先週のメッセージより 「過去を否定してはいけない」

聖書は私たちに、後ろを振り向くなと教えています。それは、過去を後悔するなという意味です。過去を後悔することなく、聖書が教える通り、すべてのことを感謝すると、どのような生き方になるのでしょうか。

✠ すべてのことを感謝せよ

1. 自分の家族を否定しない

過去を後悔する人は、こんな親に生まれなければ良かった、こんな人と結婚しなければ良かった、こんな子生まれなければ良かったと、まず家族を否定するものです。聖書は、すべてのことを感謝せよと教えていますが、その時同時に、家族に対する接し方について教えています。

「あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってはいけません。子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。父たちよ。子どもをおこらせてはいけません。彼らを気落ちさせないためです。」
(コロサイ 3:17-21)

どんなにつらくても、家族につらくあたったり、否定したりしてはいけません。それは、自分の過去を否定する行為であり、自分自身を否定する行為です。人は、自分を否定すると、人を愛せなくなります。家族を否定するのは、自分にとって愚かな行為です。

2. 自分の置かれた環境を否定しない

環境や運命には、自分自身の体や能力なども含まれます。人はつらくなると、自分の状況に不満を抱き、見えるもののせいにしがります。しかし、聖書は、そうではなく、その環境こそ、あなたにとって素晴らしい宝なのだと教えています。

パウロは、初代キリスト教会で大変活躍した宣教者であり、聖書の多くの書簡の著者です。しかし、彼は自身の健康上の問題で苦しんでおり、また、彼の働きを理解しない人々からの

迫害にも苦しんでいました。もちろん、パウロはこの問題の解決を祈り求めましたが、神様は、「そのままで良い。そのことであなたは自分の弱さに出会い、神の恵みを知るようになったのだから。」と言われました。環境によって苦しむとき、人は自分の弱さに出会い、神の恵みを知ることができるようになります。神様は、そのことを感謝せよと教えておられるのです。

「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」(Ⅱコリント 12:9-10)

パウロは、自分を取り巻く環境を感謝するようになりました。そのことで自分の弱さに出会い、結果として神の恵みに出会ったからと証ししています。もし、「自分がつらいのは〇〇のせいだ」と自分の環境を呪ってしまうと、せっかく与えられている力に気づくことができません。

3. 自分の歩みと選択を否定しない

私たちは、過去のことを引き合いに出されると、恥ずかしいと感じ、隠したがるものです。ところが、神様は、それを否定することなく感謝するように教えます。なぜなら、私たちのこれまでの選択や歩みは、神を求めてきた道だからです。

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。」(詩篇 42:1-2)

神に似せて造られ、神のいのちによって造られた私たちの魂は、神を慕い求めています。世界中の人々は、自分で気づかないだけで、皆、神を求めて生きているのです。しかし、罪によって神とのつながりを失った死の世界では、どうやったら神と結びつくことができるのかわかりません。そこで、代わりに、神と似たものと結びつこうとするようになりました。それが人です。神の見えない世界で、私たちは今、神の代わりに人とつながろうとして生きています。

よく哲学・心理学の分野でも、人は何のために生きるのかと問われると、愛を求めて生きていると言われます。愛とは神と結びつこうとする運動のことです。ところが、神の見えない世界では、この運動が人に向けられているわけです。しかし、人から愛されるためには、相手から要求される条件をクリアしなければなりません。親は子どもに対して、良い子になっ

たら愛してあげよう（悪い子を愛することはできない）、会社は社員に対して、仕事が出来たらほめてあげよう（仕事のできないやつはだめ）等の要求を突きつけます。

そして、自分の要求に応えない相手に対して怒りを覚え、要求されたほうは「がんばったのになぜわかってくれないのか」と不満を抱きます。そして、誰が愛されているかを比較し合うのです。こうして、不満は、争い、憎しみ、嫉妬を生み出し、それによって人は互いに傷つけ合い、時には殺人にすら至ります。

つまり、私たちが怒ったり、妬んだり、争ったりするのは、神を求めて結びつこうとしたのに、神と出会うことができず、人とのつながりを求めるようになった結果です。私たちは、そのことに気づかず、自分の過去を恥じて隠したいと願っていますが、それは神を求めてきた歴史ですから、恥じたり否定したりする必要はないのです。

イエス・キリストは、十字架の上で死ぬ直前、自分を殺そうとする人々のために、「彼らは何をしているのかわからないので、彼らを赦してください。」と祈りました。人は、自分自身で気づかないまま、本当は神を求めているということを、神様はごぞんじなのです。人を愛したいのにできない、争いたくないのに怒ってしまう、このように自分の願いとは異なることをしてしまうのは、神を求めたのに結びつくことができず、代わりに人と結びついてしまった結果の苦しみです。

イエス様のたとえ話に登場する放蕩息子は、父親から譲り受けた財産を使い果たして一文無しになってしまいます。しかし、その時、自分が本当に求めていたのは父だと気づいて、父のもとに帰る決心をします。私たちも同様です。自分が本当に求めているものが何なのかわからないまま、この地上で様々なものを求めて生きてきましたが、自分の魂は神を求めているのだと気づいて、クリスチャンになりました。ですから、私たちが様々なものを求めてきた過去は、恥ずかしいものではなく、神を求めてきた軌跡ですから、何も恥じたり、隠したりする必要はないのです。

✠ 信仰とは、勇気である

イエス様は、姦淫を犯した女性が捕らえられ、石打ちの刑に処されそうになったとき、この中で罪を犯したことの無い人から石を投げよと言われました。そして、誰も石を投げることができず、全員がその場から立ち去った時、イエス様は、その女性に「私もあなたを裁かない。あなたの罪は赦された。」と言われたのです。イエス様は、女性の過去や犯した罪について一切触れず、罪を悔い改めなければ赦されないとも言われませんでした。彼女の過去を否定することなく、ただ「あなたの罪は赦されている」と言われたのです。それは、彼女のしたことが、本当は神を求めての行動だったとわかっていたからです。この女性は、イエス様

に出会い、自分が求めていたのは神だと気づいてから、まったく生き方が変わってしまいました。彼女は、最後までイエスにつき従っていった弟子のひとりになりました。

また、ザアカイという男性も、イエス様に出会ったことで、まったく生き方が変わりました。彼は、取税人という仕事にかこつけ、人々からお金をだましとって、私腹を肥やしていました。ところが、ある時、イエス様がザアカイの家に泊まりに来られると、ザアカイは、イエス様を歓迎して招き入れ、誰も何も言われないのに、「私の財産の半分を貧しい人々に寄付し、これまでに人々から不正に取り立ててきたお金は4倍にして返します。」と宣言したのです。ザアカイは、イエス様と出会い、自分の魂が求めていたのは神だと気づいたのです。これまでお金に執着していたのは、神を求めていたのに、神との結びつきがなくて不安だったせいです。しかし、神との関係を回復した今、必要以上のお金はもういらなくなりました。そんなザアカイに対して、イエス様は、ただ「あなたの家に救いが来た」と言われました。イエス様は、「あなたが過去に犯してきた罪を反省しなさい」とは一言も言われませんでした。イエス様は、どんな過去も否定せず、そのまま受け入れる方なのです。

イエス様を迫害し、クリスチャンを死刑に渡してきたパウロのことすら、イエス様は一言も責めておられません。パウロは、クリスチャンを捕らえようと追っている時、神に打たれて、地に倒れました。この時、パウロは、自分が求めていたのはこの方だったと気づいたのです。そのことを知らずに、クリスチャンを殺そうとしてきた罪人のかしらの自分を、イエス様は一言も責めることなく受け入れてくださったことに、彼は深く感動しました。

神様は私たちの過去を否定せず、赦してくださいますから、もし、自分の過去を否定してしまうと、神様の愛が見えなくなります。神様は、あなたの過去は私を探そうとしてきた過去だから、心配しなくてもいいと言って受け入れてくださいます。これが赦しです。私たちの間違った行動は、神を求めていたにも関わらず、神に結びつくことが出来なかったためであることを、神様は誰よりもわかってくださっているのです。

イエス様の弟子のペテロは、イエス様が十字架に架かる時、イエス・キリストを裏切って、逃げ出しました。自分の師を裏切ったりしたら、二度と用いられることはないだろうというのが、この世の考え方です。しかし、イエス様は、三日目によみがえって弟子達の前に現れた時、一言もペテロを責めることなく、ペテロの過去については何も触れませんでした。ただ「私を愛するか」と尋ね、「それなら、私の羊を飼いなさい」と言われました。

ペテロは自分が裏切ったとわかっています。イエス様を愛そう、近づこうとしたけれど、できなかったのです。イエスはその思いをよくわかっておられたので、「何も心配しなくてよい、私は責めていないから」と受け入れてくださったのです。こうしてペテロは最初の教会を建てあげた使徒となりました。今日の教会の基礎を築いたのはペテロです。

神は、誰のことも責めずに、赦してくださいます。私たちは、自分の過去を恥ずかしいと思うかもしれないけれど、そうではなく、あなたの魂は神を慕い求めていたと、神様は知っておられます。「神はすべてのことを働かせて益としてくださる」とは、自分は神を慕い求めていたと気づく時、あなたの過去はすべて益となるということです。これが、神の愛を受け取るということです。

神様は、私たちが過去にどんなことをしようとも、神の子として受け入れ、義としてくださいます。人々の過去は神様にとって何の問題でもなく、ただ「神を求める者を私は受け入れる」というだけです。信仰とは、神があなたを受け入れることを受け取る勇気です。その勇気さえ持てば、過去を否定することも周りのせいにすることもなくなり、すべてのことに感謝できるようになると聖書は教えているのです。